

次世代の森づくりを担う 人材育成事業



地域を巻き込み、森林・森の恵みを活用したSDGs学習を展開する！

山形県村山市、天童市、山形市



事業概要

農業環境科では、学科生徒と教員を中心に「みどり活用グループ」をつくり、森林の維持管理や保全、森の恵みであるキノコや山菜の生産や間伐材などを活用した木材加工の学習を積極的に取り入れ、持続可能な開発目標（SDGs）に沿った様々な視点の学習を行い、その成果を地域住民に還元したいと考えた。活動は次のとおり。①地球温暖化防止や生物多様性の保全を目的とした森林管理の学習、②間伐材やキノコ・山菜などの有効活用に関する研究、③地域住民を対象とした森林・森の恵みを活用したSDGs学習の展開。これらのことを通して、本校の演習林内を整備する。また、間伐材などを薪として活用するとともに、生徒が学習の成果を地域に発信する取り組みに注力した。

事業成果

助成により、刈払機、チェーンソー、薪割り機、ヘルメットの購入ができ、安全・安心な状況で林業教育ができて

いる。本校の活動はマスコミなどでも取り上げられ、地域住民の関心も高かった。また、地域住民を対象とした出前講座などもできた。

事業をよく知る関係者の声

- ・村山産業高校は林業系の学校であったが、林産物の生産はキノコだけであり、間伐材なども放置していた。それらの資源を薪などにして活用することができたため、森林や林産物を学習するの重要なピースがはまったと考えている。（地元会社関係者）

参加者の声

- ・参加者の年齢層は広がった。木工体験などを実施した際の参加者からは、木材に親しむことができたことや、高校生が管理・生産する森林から得られた木材を用いた環境学習に驚きの声があった。木材を生産し、それらを活用した環境学習を実施・運用できる組織として貴重である。



樹木調査



チェーンソー講習



森林教室



高性能林業機械講習

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：4.2ha
 除伐面積：4.2ha
 間伐面積：2.2ha
 森林調査：23回
 イベント：5回

参加者数

県内：275人
 計：275人

『創』美しいもり!!プロジェクト

群馬県みどり市



事業概要

若者向けに、SDGs目標達成のためのプログラム開発及び社会実験を行い、SDGs活動や映像創作を通して将来の森林づくりのリーダー育成をめざす。また創作された映像をもとに「美しいもりが、人・環境・豊かさの調和のとれた地域が創生・再生された社会=SDGsが達成された社会に寄与する」ことを前提とした問題意識の共有、実績の共有、じぶん事化を進めるための取り組みを行った。内容は「美しいもりと次世代の森づくり」を考えたり、SDGsに取り組んでいる高校生を招き意見交換を行った。

事業成果

宿泊参加者についてはSDGs活動を通してSDGsにおける思考法を学んだり、実際に山仕事に従事し高い技術技能を有する人との交流を行った。「生業」ということを理解できたのではないかなと思う。

事業をよく知る関係者の声

・参加者の真剣な態度に驚いた。人材育成には多少なりと

も貢献できたかと思う。講義講演内容もアップグレードできたしこれからも行っていきたい。(宿泊研修)

・パネルディスカッションでの聞き手はストレートで聞きやすい話を欲していると思う。SDGsを表に出すとかえって聴く人は理解しにくい、今みんながやっていることが自然にSDGsになっているという方向が聞きやすいのではないかな。

参加者の声

- ・どこにいたとしても森林と繋がっている事に気づけて良かった。将来林業に直接かかわりたいが、もし難しかったとしても森林にかかわり続ける事を生活に落とし込んで考えていけることに気づけた。
- ・実際に森林で働いている人の話を直接聞くことができ、自分の目標をはっきりと実感できた。
- ・自分も貢献できることを考えて実際にやらなければと感じた。
- ・実際に見て触って感じる事が改めて重要だと思った。



宿泊研修林業体験



苗を移植



映像創作



高校生によるパネルディスカッション(大間々高校未来塾)

実績とりまとめ

作業内容
 植付面積：0.2ha
 植付本数：20本
 映像創作

参加者数
 県内：113人
 県外：10人
 計：123人

森林ボランティア青年リーダー養成講座

東京都青梅市、奥多摩町、京都府亀岡市、兵庫県宍粟市、香川県さぬき市、丸亀市、まんのう町、徳島県三好市ほか



事業概要

目的は、体験から一歩進んで、森林ボランティア活動に継続して関わる若い担い手を育てるためである。主な活動は、東京、関西、四国3か所での18歳～40歳を対象とした講座の実施で、それぞれ5回連続の講座を実施した。第1回：オリエンテーション、レクチャーなど。第2回～第4回：道具の使い方、間伐など人工林の整備、雑木林の整備、竹林整備など。第5回：振り返りなど。

事業成果

今年度は新たに36人が参加し、森林・林業・農山村について理解するとともに、森林保全活動に参加する若者を増やすことができた。

事業をよく知る関係者の声

・森林所有者、林業研究グループなど講座の受け入れ側の

高齢化が進んでいる。そこに若手が参加し、手入れをすることには大きな意味がある。今回のメンバーは前向きで一所懸命取り組んでいた。ボランティアであり、参加できない回もあると思うが、だからこそ今後も講座を継続して参加できる人を増やしてほしい。(四国講座に関わる行政関係者)

参加者の声

- ・木を伐るのは初めての体験だったが、やはりとても大変だった。多種多様な植物が生えている豊かな風土を改めて実感した。(関西講座)
- ・今後も多くの現場や人と関わりながら、まずは自分の知識や経験を増やしていきたい。そして、子どもに森林の働きについて伝えられるようになりたい。(四国講座)



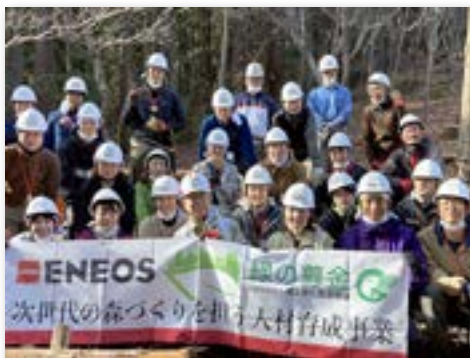
間伐(京都府亀岡市)



竹林整備(亀岡市)



間伐(徳島県三好市)



東京奥多摩町での参加者

実績とりまとめ

作業内容
 除伐面積：1.5ha
 間伐面積：1.5ha
 参加者数
 計：36人

大学生による森林保全活動推進プログラム

和歌山県田辺市



事業概要

国内における森林保全活動の推進をめざし、学生の森林保全に対する興味関心を生み関わる機会を増やすこと。ターゲットは就職活動を控えた大学生と、中長期的にキャリア選択を行う中学生である。主な活動は、①植林を体験するイベント。②学生が森林保全に関心を持つために有効なワークショップ。③参加者の森林保全への関心度が①②に参加した前後で変化したかを効果測定する。

企画・運営は当団体と協力関係にある大学生が主体となって行うことで、彼らが森林保全に関わる重要性や、楽しさを知るきっかけを与える。また、林業を学んでいない学生が企画することで、森林保全や林業に関心のない人が関心を持つための新たな視点の企画を作成する。

事業成果

林業や森林保全における課題を問題提起し、関心を持つ

きっかけを与えた。

事業をよく知る関係者の声

- ・山との関わりが少ない方が山での作業を体験してくれることはありがたい。今後はどのように山を面白がることができるのか若い目線で提言いただけるとこちらの学びにもなります。(造林業者)

参加者の声

- ・林業が今後発展していくためにどうすればいいか考える機会になった(大学生)
- ・ゲームを通して林業のことについて知ることができて良かった。(中学生)
- ・環境に配慮したものを選んで買うことが森林保全につながるので、生活の中で意識していきたい。(中学生)



ウバメガシを植樹



植樹の様子



41人が参加



参加者の皆さん

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.06ha
植付本数：200本
植林プログラム：1回
ワークショップ：2回

参加者数

県外：41人
計：41人

樹種

ウバメガシ

気候変動対策、土地本来の森づくりを協働！

神奈川県葉山町



事業概要

コロナ禍が長期化し子どもたちはストレスを抱えている。2019年より森の講座を総合学習の時間に5年生全クラスで定期開催している葉山小学校の先生方より、森づくりの体験の場が校庭内でできないだろうかとの希望があった。卒業を控えた6年生130人が130本を植樹した。植樹地は、児童たちにより『葉っぱいの森』と命名され、児童が描いたイラストと共に記念碑に刻まれた。

事業成果

5年生時に座学で森の役割や機能を勉強した児童が6年生となり、卒業記念に実際に森づくりをすることが決定した際、児童たちから歓声があがった。植樹祭の準備作業で

は、昼休みや放課後に自主的に残り、森づくりを手伝う児童もいた。植樹祭当日には、保護者も早朝より集まり、各クラスごとに三密を避けながら行う植樹を見守っていた。

事業をよく知る関係者の声

- ・子どもたちの記念樹を育む取り組みに関われたことに、一卒業生としても感謝している。(記念碑を製作した石材店主)

参加者の声

- ・みんなに愛される森になってほしい。森がみんな思い出となり、そして森の成長と自分たちの成長を重ねてほしい。(プロジェクト担当の教員)



5年生4クラスでの森講座(4年目)



植樹地を整備



6年生が植樹



「葉っぱいの森」と命名

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.002ha
植付本数：130本
枝で粗朶づくり：50m分

参加者数

県内：322人
計：322人

環境リーダー育成 実践型森林ワークキャンプ

栃木県益子町、福島県いわき市、大阪府富田林市、静岡県裾野市、三重県名張市、青森県鱒ヶ沢町



事業概要

森林保全活動を通じて、学生と地域住民をつなぎ、森林保全への意識と行動を共に高め、交流や連携を生み出すこと。主な活動は以下のとおり。①全国6か所で8事業、7～6月に5～14日間（計77日間）、間伐・草刈り・歩道作り・植樹等の森林保全ワークキャンプの実施。②リーダー訓練合宿に合わせ、成果報告会を東京で1回開催。③6月にこの事業の受入団体代表を大阪府富田林市に招き『森林ボランティア開催地サミット』を実施。

こうしたワークキャンプが新しい活動モデルとして全国各地に広がり、また参加したボランティアや住民が保全活動の新たな担い手として活動を発展していくことも期待。

事業成果

地域側で地域住民の理解を得た上で、作業中・生活面でのコロナガイドラインを作成したり、withコロナ時代にお

ける合宿型のボランティアのベースができあがった。コロナ禍における合宿型ボランティアの森林保全事業について、コロナ後のビジョンなどについて議論することができ結束力が高まった。

事業をよく知る関係者の声

- ・コロナ禍で参加者が集まるか不安だったが、大学のグループは既に何回か会っているようで、最初から結束力を感じられた。(いわきの森に親しむ会会員)
- ・地域側との交流ができなかったことは、参加者にとっては残念だった。(白神山地を守る会)

参加者の声

- ・自然に寄りそった昔ながらの生活を体感することは、人間と自然の共生について身をもって学べる貴重な機会であり、今後もこのスタイルを続けてほしい。(富田林GRリーダー)



ササ刈 (福島県いわき市)



間伐後の皮むき (大阪府富田林市)



伐採木を運び出す (三重県名張市)



ブナ、ミズナラほかを植樹 (青森県鱒ヶ沢町)

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：0.5ha
 植付本数：220本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：0.7ha
 間伐面積：0.5ha

参加者数

計：65人

樹種

ブナ、ミズナラ、イタヤカエデ

若者主導の多世代参加型の里山再生事業

神奈川県二宮町



事業概要

台風等で崩落が続いている町内の小山群はかつて薪山であったが今は誰も入らずヤブ化し真っ暗な森で獣害も深刻である。若者、子育て世代がチームになり多世代の住民参加の里山再生事業の道を開き安全講習を経て専門家とともに作業計画を作成。7月から川勾地域の竹林整備に入った。コロナ禍リモート学習となった大学生数名が大量のタケを伐採。さらに高所伐採の技術習得にも努めている。散策できる山道づくりにより今まで入れなかった地域の森をダイナミックなワークショップ会場として提供できた。

事業成果

若い世代が山林整備の基礎力を付け川勾山林で作業実績を示せた。他の里山整備団体と交流を推進、周辺事業であるタケチップパー、竹炭づくり、クラフト等伐採した木材の活用方法学び生ごみ処理機普及団体等と繋がり展開した。令和4年のフォーラムを機に複数地主と繋り、現在は手続

を進めている。町と情報共有を続け山林整備の協働の道を開きつつある。また、他市の山林整備現場と連携、町内原木椎茸農家と協力して技術を学び若い世代に事業を繋げる道を開いた。

事業をよく知る関係者の声

- ・町は法人の新しいビジョンと子ども達と若者、大人と繋がる地域の輪を評価。当法人が中心に提案した協働の環境フォーラム「ぼくたちわたしたちの地球会議」の定着を環境基本計画で宣言、令和5年度のフォーラムで気象非常事態宣言をさらなるワークショップを踏まえて子どもたちを真ん中に発令することを決めた。(教育委員)

参加者の声

- ・若い世代や子育て中の保護者が地域の山林整備に関わることで新しい学びや気づき、さらに防災、災害時のセーフティネットに繋がることも分かった。(小学生の保護者)



歩道整備



竹材を活用して歩道づくり



竹炭づくり



林内整備

実績とりまとめ

作業内容

樹勢回復：30本
 下刈面積：0.5ha
 除伐面積：1.2ha
 間伐面積：0.05ha
 ワークショップ、シンポジウム

参加者数

県内：280人
 県外：50人
 計：330人

大学生による森林・竹林整備

京都市京都市



事業概要

大学が所有する大枝演習林サカイ谷で下刈を行った。2回実施した。キノエ谷でも下刈を予定していたが、ヒノキの成長度合いを見て判断した。三山木竹林活動は2回実施、竹林内の整備等を行った。また、間伐を2回実施した。

事業成果

大枝演習林サカイ谷の下刈は完了できた。また、三山木竹林の活動は12月に1回予定していたが、雪の影響で中止となった。しかし、2回の活動を実施できたので竹林内が整備できた。

事業をよく知る関係者の声

- ・活動計画は森林整備に加えて竹林整備や炭焼きまでと多彩なものとなっていて若い人たちにとって緑化活動に対する考え方が変わってくれたものと思う。SDGsにつながる活動を体験することで社会に対する向き合い方も違ったものになっていくとともに、後輩や友人にも伝えてほしいと期待している。(演習林職員)

参加者の声

- ・天気に恵まれ、例年の暑くてしんどい下刈というイメージが払拭できた。(3回生)
- ・初めての活動参加で竹林整備を行ったが、タケを切る感覚が気持ちよかった。(1回生)



下刈



竹林整備



間伐



作業参加者

実績とりまとめ

作業内容

下刈面積：0.3ha
間伐：42本
森林資源活用：0.44ha

参加者数

府内：61人
計：61人

次世代と共につくる里山と菊炭の未来

大阪府能勢町、池田市



🌿 事業概要

里山保全に重要な地域固有の製炭業(菊炭)が放置林や獣害で衰退している。この課題解決に次世代と共に取り組み、植樹を通じて次世代が継続的に関わる持続可能な里山をめざす。

次世代の森づくりを意識し、地元や近隣の高校生大学生の参加を積極的に働きかけ、菊炭窯の見学や里山見学会、里山管理作業体験等を実施。昨年より継続している近隣市の小学校への里山出前講座で里山学習と里山のドングリを小学校園庭で育苗。5月にはこうしたかわりを持った学生も参加して植樹会を行った。

🌿 事業成果

「次世代の森づくりを担う人材」を意識し、里山フィールドワーク等との積極的な連携活動を行った。昨年に続き、近隣市の小学校での出前講座の継続、また新たに園芸高校で

も試行的にドングリ苗の育苗が始まる等、教育機関との連携も深まっている。

🌿 事業をよく知る関係者の声

- ・ 植樹の意義を学び、実際に植樹することは今後の里山保全を学ぶ機会になる。(高校教員)
- ・ 楽しみながら学ぶことができ、めったにない良い機会だ。(高校教員)
- ・ 山に来て土に触れてその感触を知り、色々な木や葉に触れてその違いを知る。現場でしか学べないことは山ほどある。(森林ボランティア)

🌿 参加者の声

- ・ 里山は人が入って整備していたから里山だったんだ、ということが分かった。(高校生)
- ・ 町の日常の生活では体験できないことを体験できた。今度は炭焼きも体験したい。(小学生の保護者)



クヌギの植樹(菊炭と里山を未来につなぐ植樹会)



獣害防止ネットを見学



製炭を学ぶ



参加のみなさん

実績とりまとめ

作業内容
植付面積：0.35ha
植付本数：280本
下刈面積：0.1ha
除伐面積：0.25ha
製炭学習、里山見学

参加者数
府内：46人
府外：157人
計：203人

樹種
クヌギ

緑をとりもどせ！土砂崩壊防止をめざして

鳥取県智頭町



事業概要

目的は、学校林内にある以前はススキの草原であったが、シカの食害により裸地となった山腹斜面を復元緑化するために、シカの不嗜好性植物を植栽して土砂崩壊を止め、ススキの繁茂をめざすこと。主な活動は以下のとおり。①植栽個所である山腹斜面は、30°前後の傾斜があり、冬季には1m以上の積雪と北西風の風衝地であるため、厳しい環境にあっても成林が期待できる地元で自生の確認された樹種（外来種は使わない）を選定した。②高校生が地元の林業研究グループの代表者から指導を受け、急斜面での安全を確保しながら10種類の苗各20本を植栽した。③シカの食害被害の有無に加え、雪圧による倒伏、根こげ、幹折れなどの被害を継続観察した。

事業成果

今回、新たな試みとしてシカが不嗜好性を示す忌避樹木

による緑化を開始することができた。植栽を行った高校生は、授業で保林全般を学習するが、植林の経験はなく、今回、急傾斜地での植栽は貴重な経験となった。

事業をよく知る関係者の声

- 山腹斜面の緑化には、斜面の土砂移動を止めることが第一である。そのためには斜面に階段状の平坦地を造成するなどの工夫も必要だ。また、植林後の観察は数十年単位の期間が必要である。対照区を設けて検証することも必要である。(県林業試験場研究員)

参加者の声

- すぐに結果が出る事業ではないので、これから後輩たちが植林面積を広げて研究を続けていってほしい。(高校生)
- ひとつひとつの作業によって裸地から緑豊かな場所になっていってほしい。(高校生)



計画立案の打ち合わせ



指導者と現地踏査



学校林斜面にシカの忌避樹木を植樹



ネジキ、ソヨゴ、エゴノキ・アセビほかを植樹

実績とりまとめ

作業内容

植付面積：1.5ha
植付本数：200本
活着・雪害調査

参加者数

県内：37人
計：37人

樹種

ネジキ、ソヨゴ、レンゲツツジ、ウリハダカエデ、ゴマギ、エゴノキ、アセビ、シロダモ、ミツマタ、シキミ

